

復され、癬痕を残す。底面には出血や漿液滲出、膿苔、痂皮を伴い、先行病変の一部が残存することが多い。血行障害（うつ滞性皮膚炎、膠原病、血管炎、動脈閉塞、糖尿病など）、感染症、悪性腫瘍などに引き続いて潰瘍を生じることが多い。

性病性の潰瘍はとくに下疳（chancre）といい、梅毒性のものを硬性下疳、軟性下疳菌によるものを軟性下疳と呼ぶ（27章参照）。また皮膚での急激な壊死潰瘍を壊疽（gangrene）という。

## 10. 亀裂 fissure ★

表皮深層から真皮にいたる線状の細い裂隙で、俗にいう“ひび割れ”である（図 4.23）。手足の慢性湿疹、乾癬、口角炎などの病変に伴うことがある。手足や関節部、間擦部、皮膚粘膜移行部に生じやすい。

## C. 粘膜疹 enanthema

口腔や眼、外陰部などの粘膜部に生じた病変を、粘膜疹（enanthema）という。特殊な用語として以下のようなものがある。

### 1. アфта aphtha ★

1 cm までの疼痛を伴う円形および境界明瞭なびらんが、粘膜に生じたものをいう（図 4.24）。表面に黄白色の偽膜を附着し、周囲に炎症性の潮紅を伴う。治癒後は癬痕を残さない。深い潰瘍となった場合は、アфтаとは呼ばない。アфтаを生じる疾患としては、ウイルス感染症（単純疱疹、水痘、手足口病など）や Behçet 病などがある。

### 2. 白板症 leukoplakia ★ ★

正常では角化しない粘膜上皮が角化を起こし、白色にみえるようになった状態である（図 4.25）。良性のものもあるが、前癌状態の可能性もある（22章参照）。



図 4.24 アфта：Behçet 病



図 4.25 白板症（基底細胞癌上に生じた）

## D. 皮膚の隆起を主とする病変

### 1. 苔癬 lichen ★

直径 5 mm 大までの丘疹が多発集合し、長くその状態を持続



図 4.26 苔癬：アミロイド苔癬



図 4.27 苔癬化：アトピー性皮膚炎



図 4.28 局面. 上：乳房外 Paget 病. 下：菌状息肉症.



図 4.29 コンジローム. 左：尖圭コンジローム. 右：扁平コンジローム.

し、かつ他の皮疹に変化しないものをいう (図 4.26)。具体的には、扁平苔癬や光沢苔癬、毛孔性苔癬、棘状苔癬、アミロイド苔癬、硬化性萎縮性苔癬、粘液水腫性苔癬、腺病性苔癬、線状苔癬などがある。非定型的なものを苔癬様発疹という。

## 2. 苔癬化 lichenification ★

慢性の経過で皮膚が肥厚して硬くなった結果として、皮溝および皮丘の形成がはっきり認められるようになった状態 (図 4.27) をいう。苔癬とはまったく違う概念なので注意が必要である。慢性湿疹、慢性単純性苔癬、アトピー性皮膚炎などにおいてみられる。

## 3. 局面 plaque ★

幅広く、ほぼ扁平に隆起する面積の広い (直径にして 2 ~ 3 cm 以上) 皮膚病変を総称して局面という (図 4.28)。隆起のパターンから扁平状や乳頭腫状などと表現され、また、その形状から円形や楕円形、不正型、環状という表現もされる。なお、単一の扁平隆起病変だけではなく、丘疹が集簇融合して扁平に隆起した病変に関しても、この表現を用いる。

## 4. 乳頭腫 papilloma ★

表皮および粘膜上皮によって覆われた、乳頭状の腫瘤である。毛細血管を含む結合組織が間質となって支持している。隆起性発育のため外傷や感染を受けやすい。なお、腺上皮の隆起性病変は通常はポリープと呼ばれる。

## 5. コンジローム condyloma ★

表面が乳頭状または顆粒状の、軟らかい小結節が集簇した状態である (図 4.29)。主に外陰部などの粘膜にみられる。代表的なものに尖圭コンジローム (ヒト乳頭腫ウイルスによる, 23 章参照), 扁平コンジローム (梅毒による, 27 章参照) がある。

## E. 毛包と関連する病変

### 1. 痤瘡 *acne* ★★

毛孔に一致して紅斑や膿疱などの炎症性変化を生じている状態をいい (図 4.30), 小さな黒点をもつ丘疹〔面皰 (*comedo*), 次項参照〕を伴っていることが多い。脂漏部位に好発する。通常, 痤瘡といえば尋常性痤瘡 (*acne vulgaris*) を意味する (いわゆる“にきび”)。ほかに, 油性痤瘡, ヨード痤瘡 (慢性ヨード摂取によりヨードが毛包から分泌され毛孔を閉塞する), ステロイド痤瘡 (ステロイド外用薬の長期連用による) などがある (19 章参照)。

### 2. 面皰 *comedo* ★★

皮脂などが毛孔を栓塞した結果, 小さな黒点を有する丘疹を生じたものである (図 4.31)。その部位の毛包は開大している。先端の黒点は, 皮脂の酸化物やほこりの付着によると考えられている。これに炎症が加わると痤瘡となる。

顔面に好発し, 面皰が局面状に集簇, 多発しているものを Favre-Racouchot 病という。

### 3. 毛瘡 *sycosis* ★

毛包に結節または膿疱をつくる状態をいい, 硬毛部で局面としてみられる (図 4.32)。尋常性毛瘡, 白癬性毛瘡などがある。



図 4.30 痤瘡：尋常性痤瘡



図 4.31 面皰：巨大面皰



図 4.32 毛瘡：白癬性毛瘡

## F. 色調の変化を主体とする病変

### 1. 紅皮症 *erythroderma, erythrodermia* ★★

全身 (体表の 80 % 以上) の皮膚が潮紅し, 健常部皮膚をほとんど残さないものをいう (図 4.33)。しばしば落屑を伴うため剥脱性皮膚炎と呼ばれることもある (9 章参照)。

### 2. 黒皮症 *melanosis*

境界不明瞭に広範囲に色素沈着をみる状態である。Riehl 黒皮症, 摩擦黒皮症などの疾患が存在する (16 章参照)。



図 4.33 紅皮症：Hodgkin 病



図 4.34 網状皮斑

### 3. 網状皮斑 livedo (reticularis) ★

大きな網目状の紅色調の皮斑。真皮下血管層（真皮と皮下脂肪組織の境界部）において、静脈網の緊張低下と動脈網の緊張亢進状態が生じることで網目状の皮斑を形成する。

大理石様皮膚（cutis marmorata）は圧迫によって消退し、色素沈着を残さない（図 4.34）。寒冷によって生じる皮斑で、小児や若い女性では生理的にみられることがある。外気温の上昇により消失することが多い。網状皮斑（livedo reticularis）は主として若い女性の膝に、淡紅色、網目状の持続性紅斑としてみられる。分枝状皮斑（livedo racemosa）は四肢に樹枝状で、環の閉じていない紫紅色持続性紅斑として出現する。いずれも血管炎など全身性の器質的変化に伴って生じやすい。

## G. 水疱・膿疱の多発する病変



図 4.35 疱疹：带状疱疹

### 1. 疱疹 herpes ★

小水疱または小膿疱が集簇した状態をいう（図 4.35）。ヘルペスウイルスの感染症である単純疱疹（herpes simplex）または带状疱疹（herpes zoster）をさすことが多い。そのほかには、Dühring 疱疹状皮膚炎や妊娠性疱疹などにおいて、小水疱の集簇という意味での疱疹が観察される。また、膿疱性乾癬や掌蹠膿疱症では膿疱の集簇がみられる。



図 4.36 膿痂疹：伝染性膿痂疹

### 2. 天疱瘡 pemphigus ★★

かつては、大型の水疱を繰り返し生じる疾患を天疱瘡と総称していたが、現在では自己免疫性機序により、表皮棘融解を生じる尋常性天疱瘡、増殖性天疱瘡、落葉状天疱瘡、紅斑性天疱瘡などが「天疱瘡」と呼ばれる（14章参照）。よって、水疱性類天疱瘡、Dühring 疱疹状皮膚炎などは独立した疾患としてみなされ、天疱瘡の範疇から除外されている。

### 3. 膿痂疹 impetigo ★

膿疱と痂皮が混在した状態であり、それに紅斑や小水疱を伴うこともある（図 4.36）。細菌性皮膚炎である伝染性膿痂疹（24章参照）が代表的である。

## H. 角層の変化を主体とする病変

### 1. 秕糠疹 pityriasis ★

細かい秕糠（こめぬか）様の落屑が生じている状態である（図 4.37）。Gibert ばら色秕糠疹や単純性秕糠疹（いわゆる“はたけ”）、連圈状秕糠疹など、いずれも角化の異常による疾患である。

### 2. 乾皮症 xerosis, asteatosis ★

皮脂および汗の分泌が減退し、皮膚が乾燥して光沢を失い粗造になった状態をいう。秕糠様の鱗屑および浅い亀裂を生じ、魚鱗癬様の外観を呈して軽度の痒痒を訴えることがある。遺伝性の色素性乾皮症および他の皮疹の後に生じる続発性乾皮症がある（13章、19章参照）。

### 3. 魚鱗癬 ichthyosis ★ ★

乾燥性の薄い鱗屑が魚のうろこのように並んだ状態（図 4.38）。各種の先天性および後天性魚鱗癬が知られている。（15章参照）。



図 4.37 秕糠疹：Gibert ばら色秕糠疹



図 4.38 魚鱗癬：葉状魚鱗癬

## I. その他の変化を有する病変

### 1. 多形皮膚萎縮（ポイキロデルマ） poikiloderma

皮膚萎縮や色素沈着，色素脱失，毛細血管拡張などが混在する局面である（図 4.39）。各種皮膚病変の末期状態として観察されることが多い。皮膚筋炎や強皮症，全身性エリテマトーデス（SLE），菌状息肉症，慢性放射線皮膚炎，色素性乾皮症などにおいてみられる。先天的に多形皮膚萎縮がみられる疾患を，先天性多形皮膚萎縮症（congenital poikiloderma，18章参照）という。

### 2. 硬化 sclerosis ★ ★

結合組織あるいは間質の増生により，皮膚が硬くなった状態で（図 4.40），強皮症や成年性浮腫性硬化症，硬化性粘液水腫などでみられる。病理組織学的には，線維芽細胞は減少し，膠



図 4.39 多形皮膚萎縮（ポイキロデルマ）：皮膚筋炎



図 4.40 硬化：モルフェア



図 4.41 脱毛症：円形脱毛症

原線維は膨化および均一化する。

### 3. 脂漏 seborrhoea

皮脂腺機能の亢進により，皮脂の分泌が増加して皮膚表面に多量の皮脂が存在する状態をいう．細菌感染などを起こしやすく，痤瘡や乳児湿疹，脂漏性皮膚炎（脂漏性湿疹，7章参照）などの発症母地になるが，単に脂漏といった場合には炎症症状は伴わない．頭部や顔面，前胸部，背部中央，腋窩，陰股部など脂腺の発達した部位は脂漏部位と呼ばれる．

個人の脂漏の程度については遺伝的要素が強く，素因が関係する．またアンドロゲンにより皮脂の排出が増加することが知られている．生理的には新生児期と思春期以後の成人に著明にみられる．

### 4. 脱毛症 alopecia

発毛がまばら，または完全にない状態である（図 4.41）．円形脱毛症，全頭脱毛症，汎発性脱毛症，蛇行性脱毛症などの疾患が存在する．

### 5. 痒痒症 pruritus

痒痒のみがあって皮疹を伴わない状態をいい，皮膚痒痒症（pruritus cutaneus）ともいう．種々の全身疾患，泌尿生殖器疾患などの局所の病変に続発することがある（8章参照）．